

事故調査委員会議事録（第9回）

令和5年6月5日

1 開催日時場所・出席者

令和5年6月5日午後3時～午後5時

出席者：近藤委員長ほか委員3名・事務局御宿・根本

ニッセー防災[REDACTED]・日本ドライケミカル[REDACTED]

全委員・事務局等各執務場所からWEB参加

2 委員会の内容

- (1) 委員長が会議を主宰（会議の様子は出席者の同意を得て録画した。）
- (2) 日本ドライケミカルから①令和5年3月15日から同年4月15日までの漏水に関する経過観察調査の結果、及び②取り外したバルブに対しキッツ社が行った漏水調査（分解調査）の結果について実施報告書が提出され、その内容について説明があった。
- (3) ①及び②の調査から、バルブから漏水があること及びその原因がバルブに生じた傷であると考えられることが確認されたが、①と②では漏水量に大きな差があり、①の漏水量を前提とした場合には前回調査時から事故発生時までの間に一斉開放弁を作動させるほどの圧力には達しないが、②の漏水量を前提とした場合には一斉開放弁を作動させる（しかも計算上は短期間に作動させる）結果となることが確認された。
- (4) ①と②の漏水量に大きな差が生じた原因について、キッツ社の見解が示された（キッツ社の調査時の調査環境が現場と異なること、傷の程度の悪化した可能性があること、異物が除去された結果傷が露わになったこと）。
- (5) 日本ドライケミカルからは、①と②の調査結果から、人為的操作以外の放水の可能性及びその原因について特定に至らなかったという考察の説明があった。
- (6) バルブの分解調査に関し、実施報告書中のNO2及びNO13のバルブについても分解し傷の有無を確認し、これを6月19日の委員会までに結果報告することになった。
- (7) 日本ドライケミカル及びニッセー防災がWEB会議から退出した後、委員間で最終報告のとりまとめ方法について協議され、次回の6月19日の委員会までに各委員が最終意見をまとめておくことになった。

(8) 楽団から事故調査委員会に委員に宛てられた質問書に対する回答内容が協議され一部修正の予定とした。

3 次回期日（第10回委員会）

令和5年6月14日午後5時30分

WEB会議

以上